

# 高血圧症の合併症

国立病院機構和歌山病院

研究検査科 小原典子

高血圧を放っておくと自覚症状がないまま、突然合併症が発症することもあります。主に心臓、脳、腎臓への合併症が多く見られます。

心臓に関する合併症としては「心肥大」、「狭心症」、「心筋梗塞」があります。「心肥大」とは高血圧により心臓の筋肉が常に強い力で血液を送り出しているため、心臓の壁が厚くなってしまふこととです。この状態が続くと心臓の筋肉が硬くなり、拡がろうとする機能（拡張機能）が低下して

心不全となり、動悸、息切れ、呼吸困難などの症状が出ます。また、高血圧の状態が続くと動脈硬化が起こり、それによって心臓に酸素や栄養分を送っている冠動脈の内側が狭くなり、心臓の筋肉への血液供給が低下し心筋虚血に陥ります。この発作が起こると、胸の中心部に締め付けられる様な痛みや圧迫感を感じ、安静にしていくと数分で収まるのが一般的です。このような状態を「狭心症」といいます。さらに、冠動脈に血の塊（血栓）ができるとう完全に内側が

つまり、閉塞した血管の下流に血液が供給されなくなり、その部分の心筋が死んでしまうのが「心筋梗塞」です。典型的な例では、胸部に強烈な痛みをもたらす発作で、安静にしても狭心症の薬を使用しても収まらず、ショック状態に陥ることもあります。

脳に関する合併症としては、「脳出血」、「脳梗塞」があります。高血圧が続くと脳の細い血管で動脈硬化を起こした血管は弾力性がなく脆いため、その血管に高い圧力がかかり続けると、脆くなった部分が破れてしまうことがあります。これが「脳出血」で、「脳梗塞」は動脈硬化を起こしている血管に血栓が詰まることで発症します。血栓により血流が止まるとその先に酸素や栄養分が供給されないため、脳細胞が死に、脳に重大な障害をもたらします。脳に起こる合併症は、症状は軽い場合もありますが、重い場合には言語障害や体の片側のマヒ、意識障害に陥ることがあります。

腎臓に関する合併症としては、「腎障害・腎硬化症」があります。高血圧による腎臓の動脈硬化が腎機能を低下させ、「腎障害・腎硬化症」になります。進行が遅いため発見されにくく腎不全にまで進行すると、だるさやむくみ、食欲不振などの症状が出て、血圧が更に上昇し悪循環となります。

また、高血圧が直接の原因ではありませんが、高血圧症の人はそうでない人に比べて、糖尿病を発症する危険性が2〜3倍も高くなります。糖尿病はインスリンが分泌されなかったり、うまく働かないことから血糖値が高くなる病気で、長く続くと網膜や腎臓、神経などにさまざまな合併症が起こります。特に高血圧症に糖尿病が合わされるとそれぞれの病状は加速されて、心筋梗塞や脳血管障害などがますます起こりやすくなります。高血圧症がある場合は、糖尿病に対する予防も合わせて考えることが大切です。

高血圧症は放っておくと脳や心臓、腎臓など生きていく上で重要な臓器に合併症が起こる、とても怖い病気です。健康診断で指摘されたり、家庭血圧で高血圧かも？と少しでも心当たりのある方は、自覚症状の出る前に一度、かかりつけのお医者さんに相談してみてもいかがでしょうか。